



会社説明資料





- 01 会社概要
- 02 事業紹介
- 03 組織について
- 04 採用情報の紹介



01 会社概要



PUBLIC
Technologies

会社名	株式会社パブリックテクノロジーズ
設立	2020年5月
経営陣	代表取締役 CEO 青木 大和 代表取締役 COO 杉原 裕斗 取締役 CTO 森宮 惺
ミッション	暮らし続けたいまちをつくる
事業内容	GovTech事業の運営
主要株主	経営陣 村井 純（内閣官房参与/デジタル庁顧問） 鈴木 寛（東京大学公共政策大学院教授/元文部科学副大臣） 福留 大士（ふるさとチョイス親会社創業者） 水野 誠一（元西武百貨店社長/元参議院議員） 他 個人投資家 数名



Our Mission

私たちのミッション

暮らし続けたいまちをつくる

株式会社パブリックテクノロジーズは、テクノロジーを駆使して自治体業務の効率化を図りながら、その先にある豊かで暮らし続けたいまちづくりを目指します。少子高齢化や人口減少といった課題に取り組みながら、住民のwell-beingを高め、持続可能で魅力的な地域社会の実現を追求します。



Our Values

私たちの行動指針

Public Instruments 社会の公器となる

Triple Win 三方よし

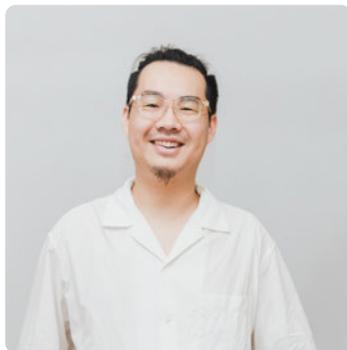
with Technology 技術を身近に

Go Global 行こう、世界へ

Zen 善を行うに勇なれ



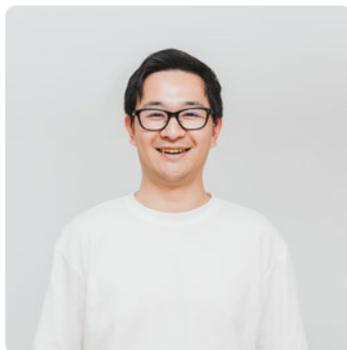
取締役



青木 大和 Yamato Aoki

代表取締役CEO

1994年生、東京都出身。2017年より株式会社アオイエを創業。2020年に株式会社アオイエよりモビリティ事業を事業分割し、株式会社パブリックテクノロジーズを創業。プライベートでは、2022年北京冬季パラリンピックのアルペンスキー日本代表選出、出場。



杉原 裕斗 Hiroto Sugihara

代表取締役COO

1996年生、東京都出身。大学在学中に、B.LEAGUE、一般社団法人ユニサカの立ち上げに参画。2017年株式会社マイメリットを創業し、電動キックボードをはじめとする電動マイクロモビリティ事業を運営。2020年株式会社パブリックテクノロジーズによる子会社化を経て、株式会社パブリックテクノロジーズに参画。



森宮 惺 Satoru Tehu Morimiya

取締役CTO

1995年生、兵庫県出身。中学時代からソフトウェア開発者・デザイナーとして活動し、デジタルネイティブ世代の代表的存在として世間の耳目を集める。大学在学中、株式会社講談社のウェブメディア部門の技術責任者・クリエイティブディレクターおよび人材育成スタートアップのCCOなどを務め、2020年11月株式会社パブリックテクノロジーズに参画。

メンバー

酒井 拓歩 Takuho Sakai

UI/UXデザイナー

中田 怜 Rei Nakada

いれトク! 事業部 部長

上野 航平 Kohei Ueno

公共政策部 部長

開発パートナー

矢倉 大夢 Hiromu Yakura

テクニカルアドバイザー (機械学習・人工知能領域)

1996年生、大阪府出身。計算機科学者。情報処理推進機構未踏プロジェクト最年少採択(当時)、高校生科学技術チャレンジ文部科学大臣・科学技術政策担当大臣賞、U-20プログラミングコンテスト経済産業大臣賞。日本学術振興会特別研究員、Google PhD Fellowship

ほか 5名



Our Solution

私たちの事業

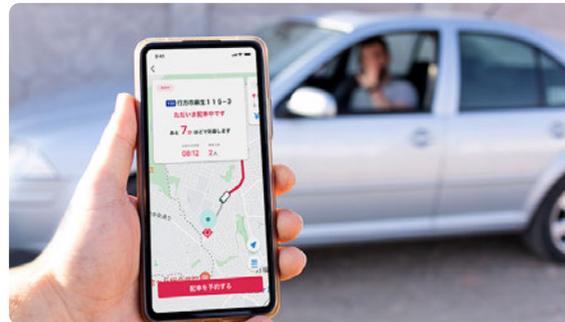
DXツールを「上手に」使って、 自治体を「もっと豊か」に



自治体スーパーアプリ事業

いれトク！

自治体サービスをまるごと
1つのアプリに



公共交通事業

AI配車（オンデマンド交通）

AIで車とドライバーを
最大限活用できる公共交通を



AIソリューション事業

市役所GPT

「問い合わせ」の概念を変える



02 事業紹介



自治体と市民をつなぐコミュニティアプリ

いれトク！

「いれトク！」は地域通貨、オンデマンド交通配車、住民アンケート、健康ポイント、防災啓発など、様々な住民サービスを統一基盤で提供するサービスです。統一基盤を提供することで、各種サービスの導入コスト・ユーザー獲得コスト・サービス維持費を大幅に削減します。また、自治体の推進したい施策に紐付くサービス（健康ポイントや住民アンケートなど）利用者には、対価として地域通貨を還元することで、住民の参加を促せることが特徴です。

提供住民サービス一覧

- 地域通貨
- AIチャットボット(市役所GPT)
- AI配車(オンデマンド交通)
- ライドシェアシステム
- チェックイン
- 健康ポイント
- ボランティアポイント
- 人流データ
- 住民アンケート
- セグメント別プッシュ通知
- お知らせ通知
- 防災啓発
- ごみ(粗大ゴミ)収集・予約システム
- 高齢者見守り
- 電子申請フォーム
- 母子手帳
- 除雪管理システム(除雪依頼)

●は開発予定機能です。



持続可能な公共交通ネットワークへ

AI配車（オンデマンド交通）

バス・電車を待つ「ニーズが供給に合わせる」定時定路線型から、ドアツードアの「供給がニーズに合わせる」公共交通のオンデマンド配車型への転換を実現します。現行法下で取り組む「いれトク！AI配車」に対し、遊休ドライバー・遊休車両を最大限に活用し、過疎地の交通空白地帯を補完する「過疎地ライドシェア」構想にも取り組みます。

-  **ダイヤ・路線なし**
 - ・ニーズに応じて自由に運行
 - ・廃線などのリスクもなし
-  **財政負担の軽減**
 - ・必要な分だけ運行できる
 - ・路線バスの再編が可能に
-  **スマホ1つで予約**
 - ・アプリ、電話で予約可能
 - ・事前の料金提示も可能

-  スマホに不慣れな方にも優しい、**シンプルなインターフェース**
-  アプリ予約された方への**割引・無料化**でアプリ利用を促進
-  電話予約を想定した**オペレーター向けツール**も同時に提供



住民・自治体向けの次世代チャットボット

市役所GPT

旧来型のAIチャットボットは、ユーザーの質問を理解するためにAIが回答についてはあらかじめ用意した内容しか返答することができませんが「市役所GPT」は自治体のウェブサイトなどのウェブサイトから生成AIが回答の生成までを行うことができる最新型のAIチャットボットです。「市役所GPT」では、あらかじめ指定したWebページの情報をAIが自動でクロールするため、膨大なQAの作成や維持管理業務がほとんど不要となります。市民も回答を選択肢から選ぶ必要がなく、質問入力のみで最適化された回答を受け取ることができます。

これまでのチャットボット

市役所GPT

- 職員が回答Q&Aを作成 -----> • 職員は学習元となるWebサイトを設定
- 職員が回答をメンテナンス -----> • 回答は最新情報に自動で更新
- データベース内の決められた回答のみ ----> • 指定Webサイトから回答を生成
- AIが質問のテーマを解釈 -----> • AIが質問の意味を解釈
- 一問一答のみ -----> • 次の質問へ文脈を引き継ぐ



茨城県行方市での導入実績

導入目的

- ・年間約4億円の財政負担がある公共交通事業の改善
- ・各住民サービスのDX・効率化

導入機能

- ・地域通貨
- ・移動ポイント
- ・オンデマンド交通

(健康ポイント、防災啓発、住民アンケートも年度内に導入予定)

普及状況・効果

- ・導入半年で人口の5%が継続的に利用

→10代-80代に幅広く普及

- ・各システムの統合により開発・維持コストを大幅に削減

その他導入予定自治体

愛知県

沖縄県

神奈川県横浜市

広島県尾道市



03 組織について



平均年齢 27歳

多様なバックグラウンド

比較的に若いメンバーで構成されているチームですが、ドメインエキスパートを含む、様々なバックグラウンドを持ち合わせている人がたくさんいます。

- ✓ 起業経験
- ✓ 国家公務員
- ✓ 地方の行政機関勤務
- ✓ NPO法人の経営
- ✓ デザイナー
- ✓ 大手技術責任者
- ✓ パラリンピック アルペンスキー日本代表





働く環境

勤務時間	フレックスタイム制 7:00～22:00の間で自由に勤務可能 コアタイム10:00～17:00
出社ルール	出社 + 一部リモート可
勤務地	渋谷駅徒歩5分
休暇	土日祝日 夏季休暇 年末年始休暇 年次有給休暇（入社後半年より付与）

福利厚生

- ✓ 交通費全額支給
- ✓ 社会保険、労働保険完備
- ✓ 定期健康診断
- ✓ 産休・育休制度
- ✓ メンター制度
- ✓ 社用PC貸与



多様なイベントを通じて 組織力を高める

チームビルディング

四半期合宿

四半期ごとに戦略策定を行う経営合宿を実施しています。全ての社員を招待し、向こう数ヶ月だけでなく、中長期的な戦略を皆で協議しています。

パブテクご飯会

月に一度社員でオフィスで夕ご飯を食べる会を開いています。時には手作りを持ち寄り、時には好きな食べ物をオーダーし、みんなで食卓を囲ってチームの親睦を大切にしています。





“テクノロジーの力で、 どこに住んでいても輝ける日本をつくる”

上野 航平 Kohei Ueno

公共政策部長

2018年から5年間国家公務員として勤務。法改正や政策立案に従事した後、2023年からパブリックテクノロジーズに参画。

入社理由

中学・高校の同級生だったCTOの森宮に声をかけてもらい、スタートアップならではのエネルギッシュな雰囲気と、フレックスタイム制・リモート勤務などの柔軟な働き方に惹かれて入社しました。

お仕事のやりがい

多くの自治体にサービスを提供し、自治体職員や住民の皆さんに「地域が良くなった」という実感を持ってもらいたいという思いがあります。また、地方の自治体と協力して問題を解決することができることに喜びを感じています。この仕事を通じて、地域社会の発展に貢献できることが、私にとって大きなやりがいとなっています。



**“スタートアップならではの強みと視点で、
魅力に溢れた地域づくりに貢献する”**

中田 怜 Rei Nakada

いれトク！事業部 部長

2019年に起業。その後、ふるさと納税制度を中心に地方自治体とのプロジェクトに従事。2020年からパブリックテクノロジーズに参画し、地方自治体との連携事業を推進。

入社理由

2020年5月の創業時にパブリックテクノロジーズに入社しました。この決断は、兼ねてから親交のあったCEOの青木からの誘いを受けたことがきっかけです。元々、自治体との仕事に従事していましたが、より規模の大きな事業・サービスに挑戦したいという思いから入社を決意しました。

お仕事のやりがい

公共領域での仕事は、信用や実績が少ないスタートアップにとって難易度が高い領域です。にも関わらず、そこにスタートアップとして挑戦できていることに魅力を感じています。経営陣、各メンバー、株主の皆様の経験とビジョンが大きな支えとなり、チーム一丸となって会社を成長させています。今後もより多くの地域に貢献し、必要とされる会社へと成長することに向けて頑張りたいと思っています。



04 採用情報の紹介



Join Us

暮らし続けたいまちづくりを共に

地域を想い、技術で応える。

まずは、カジュアル面談しませんか？



選考期間は約2週間です



カジュアル面談の申請はコーポレートサイトから

または

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfyTfT7DFMKKtwg7s45z9dIypFKToZYkzFP6v_5Nign-Lbl-A/viewform



青木 大和 Yamato Aoki

代表取締役CEO

暮らし続けたいまちをつくる。この想いは、全国津々浦々を巡り、多くの人と対話する中で強く感じた思いでした。

四季折々、風光明媚、日本全国あらゆる町にそれぞれの魅力があります。一方で近しい課題があるのにも関わらず、それぞれが別々に知恵を絞り、課題解決に向かって走っている現状もまたあります。だからこそ私たちは、あらゆる地域の課題に挑む知恵を共に育み、シェアし、1つとなって課題解決に向かっていく、そんなソリューションを提供し続けていきます。そして、多くの町がもっと個性を育み、それぞれの色を大切にする。そのような景色を全国各地で描けるようにあらゆる町と共に走り続けていきます。

課題先進国、日本だからこそ、テクノロジーを駆使し、ありとあらゆる課題を解決していく。多くの皆さんと共に邁進していきます。

青木大和

地域を想い、技術で応える

